

山口大学医学部医学科コンピテンシーと医学専門群におけるマイルストーン(令和6年 全学DP改訂対応) 20240717作成

		医学専門Ⅰ群	医学専門Ⅱ群	医学専門Ⅲ群	医学専門Ⅳ群・Ⅴ群	卒業時
群の特徴		医学・医療の基礎となる基礎医学を、臓器・系統別に編成された「コース・ユニット制」に基づいたシステムのもとで学修する。講義、実習、少数グループ学修等により、医学・医療の基礎となる基礎医学知識を身に付ける。	基礎医学から臨床医学への発展前段階として、社会医学や臨床医学総論を含めた知識の水平的統合を行う。また研究活動を通じて科学的探求力と自己開発力の涵養を行う。	臓器・疾患別に編成されたユニット講義により臨床医学各論を体系的に学ぶとともに、医療法学、医療安全、多職種連携、基本的臨床技能を学修し、臨床実習前段階としての基本的能力を身につける。	医学部附属病院、教育関連病院や地域の医療機関での診療参加型臨床実習を通じて、知識・技能・態度など医師として求められる能力の涵養と発展を図る。	
		基礎	基礎	発展	応用	ディプロマ・ポリシーとコンピテンシー
DP1-1: 地域・国際対応力		地域の保健・医療・福祉・介護に関する社会医学知識を身に付けている。	高度自己修学コースや社会医学活動を通じて、地域の保健医療を理解・実践できる。社会・自然科学と関連する医学知識を広く学び、社会の変化や国際化に対応する能力を身に付けている。	疾病に関する疫学・予防・医療体制等、地域医療や国際医療に関する知識を有し、地域保健活動を実践することができる。	地域医療実習や学外実習を通じ、地域医療・地域保健活動やプライマリケアを実践できる。	地域の保健・医療・福祉・介護及び行政等との連携を理解し、地域における健康の増進と疾病の予防・治癒に貢献できる基本的な考え方を身に付けている。 ・医療環境や公衆衛生について国際的視野を持ち、人種・医学の歴史・社会・自然に関する知識を広く身に付け、医師の社会的役割の変化や国際化に対応できる。
	(1)予防医学と健康増進	社会と健康・疾病の関係および予防医学の基本的知識を身につけている。	社会医学活動を通じて、疾病予防や健康増進の活動に参加することができる。	模擬患者やテュリアル教育を通じて、疾病予防や健康増進の活動を立案することができる。	臨床実習の場で、疾病予防や健康増進の活動に参加することができる。	社会と健康・疾病の関係を理解し、疾病予防や健康増進の活動に参加する。
	(2)地域医療	地域社会における地域包括ケア・救急医療・健康増進活動等に関する基本的知識を身につけている。	社会医学活動を通じて、地域社会における地域包括ケア・救急医療・在宅医療・健康増進活動等に参加することができる。	模擬患者やテュリアル教育を通じて、地域包括ケア・救急医療・在宅医療・健康増進活動等を立案することができる。	臨床実習の場で、地域社会における地域包括ケア・救急医療・在宅医療・健康増進活動等に参加することができる。	地域社会における地域包括ケア・救急医療・在宅医療・健康増進活動等を理解し、その活動に参加する。
	(3)医療・介護・福祉制度	地域の保健・医療・介護・福祉の制度とシステムに関する基本的知識を身につけている。	社会医学活動の中で、社会医学に関する知識を横断的に用いて、問題解決に応用できる。	模擬患者やテュリアル教育を通じて、地域の保健・医療・介護・福祉の活動を立案することができる。	臨床実習の場で、地域の保健・医療・介護・福祉活動に参加することができる。	地域の保健・医療・介護・福祉の制度とシステムを理解し、自身の活動現場においてその知識を活用できる。
	(4)保険診療・医療経済	国民皆保険制度や保険診療に関する基本的知識を身につけている。	社会医学活動の中で、保険制度や医療経済に関する視点をもた、自ら情報を収集し、説明することができる。	模擬患者やテュリアル学修を通じて、医療経済的視点を持つとともに、保険診療に関する法令に従った診療を計画することができる。	臨床実習の場で、保険診療に関する法や医療経済に配慮した診療に参加することができる。	国民皆保険の意義を理解し、保険診療に関する法令に従って、医療・経済性に配慮しながら診療を行うことができる。
	(5)災害医療	災害医療の特殊性とそれに関する組織(DMAT・JMAT等)についての知識を身につけている。	災害医療の特殊性とそれに関する組織(DMAT・JMAT等)についての知識を修得し、災害発生時に必要な医療体制について説明できる。	災害医療の特殊性とそれに関する組織(DMAT・JMAT等)についての知識を修得し、災害発生時には学生医(Student doctor)として適切な行動して社会や地域に貢献できる。	災害医療の特殊性とそれに関する組織(DMAT・JMAT等)についての知識を修得し、災害発生時には学生医(Student doctor)として適切な行動して社会や地域に貢献できる。	災害医療の特殊性とそれに関する組織(DMAT・JMAT等)についての知識を修得し、災害発生時には適切な行動して社会や地域に貢献できる。
	(6)国際貢献	保健・医療に関する国際協力の仕組みについて説明することができる。	国際人としての語学力や世界の保健・医療に関する教養を備え、機会があれば海外での活動に参加することができる。	保健・医療に関する国際的課題に目を向け、自ら情報を収集し、説明することができる。	健康や疾病に関する国際的視野を持ち、国際社会の一員として活動することができる。	国際人としての語学力や教養を備え、健康や疾病に関する国際的視野を持ち、国際社会の一員として活動する。
DP1-2: 科学的探究力		自然科学への探究心と論理的思考力を持ち、基礎医学知識の修得と実習手法を実践できる。	人々の健康と疾病の問題に対して幅広い学術的視野を持ち、独創的な研究活動や社会活動を行うことができる。その成果を論理的に理解し、論文とまとめるとともに、口頭発表できる。	基礎医学と臨床医学を垂直統合して課題に取り組むことができる。臨床推論を体験し、問題点の発見と考察、解決のプロセスを学修する。また成果をまとめる、発表できる。	臨床情報を臨床医学・基礎医学・社会医学等の知識をもとに論理的に考察し解決に導くことができる力を養う。成果をレポートにまとめ、口頭発表できる。	医学・医療の知識や技術の向上に貢献できる。創造的な意欲を有する。自ら課題を発見・提起して、論理的に思考し、解決への道筋を提案できる。成果を文書と口頭で発表できる。
	(1)リサーチマインド	基礎・社会医学・自然科学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を批判的に評価する姿勢を持ち、医学への興味・関心を維持できる。	基礎・臨床・社会医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を批判的に評価する姿勢を持ち、研究活動を通じて未知の病態や治療への興味・関心を維持できる。	テュリアル学修において、基礎・臨床・社会医学領域での研究の意義を理解し、課題への興味・関心を維持できる。	臨床実習の場で、基礎・臨床・社会医学領域での研究の意義を理解し、未知の病態や治療への興味・関心を維持できる。	基礎・臨床・社会医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を批判的に評価する姿勢を持ち、未知の病態や治療への興味・関心を維持できる。
	(2)課題発見と問題解決	自然科学・医学・医療における現在の問題点を認識し、それらを解決する方法を考察することができる。	医学・医療における現在の問題点を抽出し、それらを解決するための独創的な研究活動や社会活動を行うことができる。	テュリアル学修において、その課題を抽出し、それらを解決する過程に参画することができる。	臨床実習の場で、医学・医療において既存の知識・技能では対応できない問題点を抽出し、それらを解決する過程に参画することができる。	医学・医療において既存の知識・技能では対応できない問題点を抽出し、それらを解決する過程に参画することができる。
	(3)研究成果の発表能力	研究活動の目的・方法・結果についての解析法、考察やプレゼンテーションの方法を概説できる。	自己開発コースや修学論文テュリアルにおいて、研究の目的・方法・結果について解析および考察し、それらを適切な形で社会に発信できる。	テュリアル学修において、解析および考察し、それらを適切な形で発表できる。	臨床実習の場で、自身の研究や他者の論文等について、その目的・方法・結果について解析および考察し、それらを適切な形で発表できる。	研究の目的・方法・結果について解析および考察し、それらを適切な形で社会に発信できる。
DP2-1: 医療基盤力		生命現象の基本、人体の基本的構造と機能、分子細胞生理学等の基礎医学知識や、診療の基礎となる臨床病理学知識を有し、実習を通じて問題解決に応用することができる。	基礎医学知識の学修を進めるとともに、基礎コースの最終段階として統合医学・テュリアル等の演習を通じて知識の水平的統合を行い、問題解決に応用できる。	基礎医学と社会医学の知識を基盤として、臨床医学を系統的に学修することで、疾病について包括的に理解し、病態や病所の理解や臨床推論に応用することができる。	診療参加型臨床実習を通じ、学修した基礎医学・臨床医学知識を応用し、基本的診療技法・基本的診療技能などを実践できる。	医学・医療において基盤となる知識を体系的に身に付け、その知識体系を文化・社会等の学際分野と関連付け理解し、医学・医療の変化に対応し、新規課題に応用できる。
	(1)基礎医学	生命現象の基本、人体の基本的構造と機能、分子細胞生理学等の基礎医学知識を身につけている。	基礎医学知識を横断的に用いて、問題解決に活用できる。	基礎医学知識を基盤として、臨床医学の系統的な学修に応用することができる。	基礎医学知識を基盤として、臨床実習の場で診療や臨床推論に応用することができる。	基礎医学の知識を、疾患の病因・病態・症候等の理解に応用できる。
	(2)社会医学	社会医学に関する基本的知識を身につけている。	社会医学に関する知識を横断的に用いて、問題解決に応用できる。	テュリアル学修を通じて、社会医学に関する課題について対応方法を提案することができる。	臨床実習の場で、社会医学の知識を個人・集団を対象とした医療・保健活動に応用できる。	社会医学の知識を、医療・保健活動に応用できる。
	(3)臨床医学	疾患への理解や診療の基盤となる臨床的な知識を身につけている。	高頻度または重要な疾患について、疫学・病因・病態・症候・診断・治療・予後等を概説することができる。	疾病について総合的に理解し、臨床推論を行い、適切な治療を提案することができる。	臨床実習の場で臨床医学に関する知識を用い、臨床推論に基づき適切な診療や臨床判断に応用することができる。	高頻度または重要な疾患について、疫学・病因・病態・症候・診断・治療・予後の知識を修得し、臨床推論に基づき適切な診療ができる。エビデンスを時味し臨床判断に応用できる。
	(4)行動医学	人間の行動と心理に関する基本的知識を身につけている。	個や社会における行動と関連する疾患や問題点を概観することができる。	行動と関連する疾患や問題について対応方法を提案することができる。	人間の生涯にわたる行動と心理の特性を理解し、患者に適切な対応ができる。	人間の生涯にわたる行動と心理の特性を理解し、適切な対応と医療を提供できる。
DP2-2: 総合的診療能力		将来の医師としてのコミュニケーション能力を有し、医療・介護に関する見学実習や保健活動や安全に実践できる。	実践的診療の基盤となる基礎医学知識を応用し、患者安全と全人的視点をもって実習や社会活動を行うことができる。	少数グループで課題解決型学修、実技実習、シミュレーション実習を行い、臨床実習前段階としての医学知識の統合と臨床推論の演習、基本的診療技能の修得を行う。	診療チームの一員として、自ら医療面接や身体診察、基本的検査によって情報を収集し、統合された知識と技能に基づいて問題点を抽出し、解決に向けて診断や治療の計画を立案・実行することができる。	統合された知識・技能・態度に基づき、全身を総合的に診療する実践的能力を修得している。良好な医師患者関係を築けるコミュニケーション能力を有し、患者中心のチーム医療を安全に実践できる。(臨床推論力、基本的診療技能、実践的診療能力、医療安全力が必要)
	(1)医療面接		医療面接を行う上で必要な基本的な知識を身につけている。	実技実習やシミュレーション実習の中で、模擬患者の立場を尊重し、病歴を適切に聴取するとともに良好な関係を構築する必要がある。	臨床実習の場で、患者の立場を尊重し、病歴を適切に聴取するとともに患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行うことができる。	患者の立場を尊重し、病歴を適切に聴取するとともに患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行う。
	(2)身体診察		身体診察を行う上で必要な基本的な知識を身につけている。	実技実習やシミュレーション実習の中で、基本的な身体診察を行い、所見を認識し、鑑別診断を想起することができる。	臨床実習の場で、体系的に系統立てて効率的な身体診察を行い、所見を認識・記録し、適切な鑑別診断を行うことができる。	体系的に系統立てて効率的な身体診察を行い、所見を認識・記録し、適切な鑑別診断を行う。
	(3)臨床技能			実技実習やシミュレーション実習の中で、基本的な臨床技能を行うことができる。	臨床実習の場で、基本的な臨床技能について、適応、実施方法、合併症等を理解し、適切な態度でこれを安全に実施できる。	基本的な臨床技能について、適応、実施方法、合併症等を理解し、適切な態度でこれを安全に実施できる。
	(4)診療録		診療録についての基本的な知識を身につけている。	模擬患者やテュリアル学修を通じて、問題指形式診療録形式で診療録を作成することができる。	臨床実習の場で、問題指形式診療録形式で診療録(学生記録)を作成することができる。状況により医療文書の作成に参画する。	診療録についての基本的な知識を修得し、問題指形式診療録形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。
	(5)プレゼンテーション		医学的プレゼンテーションの方法に関する基本的な知識を身につけている。	模擬課題やテュリアル学修を通じて、患者病状、プロブレムリスト、鑑別診断、臨床経過、治療法の要点を提示することができる。	臨床実習の場で、患者の病状、プロブレムリスト、鑑別診断、臨床経過、治療法の要点を提示し、医療チーム構成員と情報共有ができる。	患者の病状、プロブレムリスト、鑑別診断、臨床経過、治療法の要点を提示し、医療チーム構成員と情報共有できる。
	(6)救急医療	生命を脅かす重大な病態について、その基盤となる基礎医学知識を身につけている。	救急医療を支える社会制度について説明できる。	緊急を要する病態や疾患・外傷の基本的知識を修得している。	臨床実習の場で、医療チームの一員として救急医療に参画することができる。	緊急を要する病態や疾患・外傷の基本的知識を修得し、医療チームの一員として救急医療に参画する。
	(7)慢性期医療	慢性疾患の病態の基盤となる基礎医学知識を身につけている。	慢性期医療を支える社会制度について説明できる。	代表的な慢性疾患について、その病態・経過・治療を理解している。	臨床実習の場で、医療チームの一員として慢性期医療に参画することができる。	慢性疾患の病態・経過・治療を理解し、医療を提供する場や制度に応じて、医療チームの一員として慢性期医療に参画する。

	(8)患者への配慮	見字や体験実習において、患者の苦痛や感情に配慮した対応を行うことができる。	同左	模擬患者やロールプレイを通じて、患者の苦痛や感情に配慮した対応を行うことができる。	臨床実習の場で、患者の苦痛や感情に配慮しながら、患者や家族に対して誠実で適切な支援を行うことができる。	患者の苦痛や感情に配慮しながら、患者や家族に対して誠実で適切な支援を行う。
	(9)感染対策	見字や体験実習において、指導の下で医療関連感染に注意して行動することができる。	同左	院内感染対策を実践するための基礎知識を身につける。	臨床実習の場で、医療関連感染の予防対策を実践し、発生時の初期対応ができる。	医療関連感染の予防対策を実践し、発生時の初期対応ができる。
	(10)安全管理	見字や体験実習において、指導の下で安全に配慮した対応をすることができる。	同左	模擬課題やテュリアル学習を通じて、患者や医療者の安全を守るために、個人的・組織的な対応ができる。	臨床実習の場で、患者や医療者の安全を守るために、個人的・組織的な対応ができる。	医療における患者や医療者の安全を守るために、個人的・組織的な対応ができる。
	(11)医療の質	見字や体験実習において、指導の下で医療の質や安全管理を考えて行動することができる。	同左	医療機関や医療従事者が実施している、医療の質や安全管理の取り組みについて説明できる。	臨床実習の場で、実施されている医療の質や安全管理について常に振り返り、その改善と向上を図る。	組織や自身が実施している医療の質や安全管理について常に振り返り、その改善と向上を図る。
	(12)実践的診療能力				臨床実習の場で、統合された知識・技能・態度に基づき、全身を総合的に診療することができる。	統合された知識・技能・態度に基づき、全身を総合的に診療することができる。
DP3-1: 医療プロフェッショナルリズム		医療倫理に関する基本的な知識を修得するとともに、医療人としての自覚をもった対応ができる。自律した学習姿勢を育み、解剖・生理等と多数の命を持って取り組むことができる。将来の医師としての倫理観を持って行動することができる。	研究活動や社会医学活動を通じて、教養を高めるとともに、研究倫理やセルフマネージメントなど医師としての高い倫理性を身に付けている。	医療に関する法学や医療安全・臨床倫理に関する知識と考え方を身につけ、模擬患者や事例検討、シミュレーション学習において医師としての対応を実践することができる。	医師としての職責を自覚し、患者・家族および医療スタッフ等と良好な関係を築くことができる。医療安全を心がけて実習を行うことができる。キャリア教育や指導医とのピアスカッションを通じて、自身の目標と将来像を表現できる。	・倫理観: 教養を高め、豊かな人間性を養い、医師としての社会的責任を自覚して、自己の良心と社会の規範に従って行動し、基礎的な医療倫理問題に対応できる。 ・組織としての職責: 多種多様な人間性と生命の尊厳について深い認識を有し、人の命と健康を守る医師としての職責を自覚している。 ・患者安全: 患者及びその家族の秘密を守り、患者の安全を最優先し、患者中心の立場で考えられる。
	(1)医療人としての倫理観	医療倫理に関する基本的知識を修得している。医学生として、解剖・生理等の実習を謙虚な多数の命を持って取り組むことができる。将来の医師としての倫理観を持って行動することができる。	学習過程や社会医学活動の中で、医学生として高い倫理観を持って行動することができる。	医療人としての倫理に関する基本的な知識を身につけ、模擬患者や事例検討等において、適切な対応を提案することができる。	学生医としての職責を自覚し、患者・家族および医療スタッフ等と良好な関係を築くことができる。	医療人としての倫理に関する基本的な知識を修得し、それに沿って行動する。
	(2)研究者としての倫理観	研究倫理に関する基本的な知識を身につけている。	研究倫理に関する基本的な知識を持ち、指導のもとで適切な研究活動を行うことができる。	同左	研究倫理に関する基本的な知識を持ち、研究倫理に従った適切な研究活動(基礎研究・臨床研究)に参加することができる。	研究倫理に関する基本的な知識を身につけて、それに沿って適切な研究活動を行うことができる。
	(3)利益相反と守秘義務	見字や体験実習の場で、患者のプライバシーを尊重し守秘義務を果たすことができる。	利益相反に関する基本的な知識を持ち、指導のもとで適切に対応できる。	臨床実習前段階の医学生として、利益相反と守秘義務について理解した上で行動することができる。	利益相反が生じる可能性を認識し適切に対応できる。臨床実習の場で、患者のプライバシーを尊重し守秘義務を果たすことができる。	利益相反が生じる可能性を認識し適切に対応できる。患者のプライバシーを尊重し守秘義務を果たす。
	(4)利他的・共感的かつ誠実な対応	見字や体験実習の場で、患者および家族に対し、利他的、共感的に接しながら誠実に対応することができる。	研究活動や社会医学活動を通じて、関係者に対し利他的、共感的かつ誠実に対応することができる。	臨床実習前段階の医学生として、模擬患者や事例検討等において、利他的、共感的立場で誠実に対応することができる。	臨床実習の場で、患者および家族に対し、利他的、共感的に接しながら誠実に対応することができる。	患者および家族に対し、利他的・共感的に接しながら誠実に対応する。
	(5)責任感と自己規制	医学生としての責任感を持ち、自律した学習姿勢を育むとともに、自身の問題点を把握し、改善することができる。	同左	臨床実習前段階の医学生としての責任感を持ち、問題点については謙虚に自らを律して対応することができる。	臨床実習の場で、常に医師(医学生)としての責任感を持ち、謙虚に自らを律して行動する。	医師としての責任感を持ち、謙虚に自らを律して行動する。
	(6)社会的責務	医学生としての業務(学業)に限らず、医学生としての責務および社会からの期待を認識し、自身の問題点を把握し、改善することができる。	同左	同左	臨床実習における学生医(Student doctor)としての責務および社会からの期待を認識し適切に行動することができる。	医師としての業務に限らず、医師・医療人としての責務および社会からの期待を認識し適切に行動する。
	(7)患者安全	見字や体験実習の場で、患者及びその家族の秘密を守り、患者の安全を最優先し、患者中心の立場で考えられる。	同左	臨床実習前段階の医学生として、医療現場における患者安全に必要な知識を修得し、必要な行動を立案できる。	臨床実習の場で、患者及びその家族の秘密を守り、患者の安全を最優先し、患者中心の立場で考えられる。	患者及びその家族の秘密を守り、患者の安全を最優先し、患者中心の立場で考えられる。
DP3-2: チーム医療とコミュニケーション能力		実習やグループ学習において、周囲と連携して役割分担と情報共有を行い、協調・共働するチーム力を身につけている。	研究活動や社会医学活動を通じて、研究者や医療従事者、社会と深く関わり、円滑なコミュニケーションと共働ができる。機会があれば学外や海外での活動にも参加できる。	医療安全・行動医学・多職種連携に関連するユニットで、医師としての責務を自覚し周囲と共働することができる。小グループで共働して事例検討やシミュレーション教育に取り組むことができる。	指導に関わる医師や看護スタッフ等の多職種・医療職との連携の中で、医師としての対応やコミュニケーション、チーム医療を実践できる。コミュニケーション能力を身に付け、情報収集・論述・国際交流ができる。	・他者と円滑にコミュニケーションを図り、相互尊重のもとに協調・共働してチーム医療ができる。また、目標実現のためにリーダーシップを発揮できる。 ・医療内容を分かりやすく説明する等、患者やその家族との対話を通じて、良好な人間関係を築くことができる。 ・英語によるコミュニケーション能力を身に付け、情報収集・論述・国際交流ができる。
	(1)患者医師関係	見字や体験実習の場で、患者や家族の心理・社会的背景を理解し、誠実な態度で適切な信頼関係を築くことができる。	同左	模擬患者やテュリアル学習を通じて、患者や家族の心理・社会的背景を理解し、誠実な態度で適切な信頼関係を築くことができる。	臨床実習の場で、患者や家族の心理・社会的背景を理解し、誠実な態度で適切な信頼関係を築くことができる。	患者や家族の心理・社会的背景を理解し、誠実な態度で適切な信頼関係を築くことができる。
	(2)コミュニケーションスキル	実習やグループ学習において、明確な表現で周囲に意見や情報を伝えることができる。	実習、グループ学習や研究活動の中で、明確な表現で周囲に意見や情報を伝えることができる。	模擬患者やテュリアル学習を通じて、わかりやすい言葉を使いながら、冷静に思いやりを持って患者に安心感を与え癒やすことができる。	臨床実習の場で、わかりやすい言葉を使いながら、冷静に思いやりを持って患者に安心感を与え癒やすことができる。	わかりやすい言葉を使いながら、冷静に思いやりを持って患者に安心感を与え癒やすことができる。
	(3)医療者間コミュニケーション	実習やグループ学習において、必要な情報を共有しながら正確な意思疎通を行い、チーム内の信頼関係を構築できる。	実習、グループ学習や研究活動の中で、必要な情報を共有しながら正確な意思疎通を行い、チーム内の信頼関係を構築できる。	模擬患者やテュリアル学習を通じて、必要な情報を共有しながら正確な意思疎通を行い、チーム内の信頼関係を構築できる。	臨床実習の場で、必要な情報を共有しながら正確な意思疎通を行い、医療チーム内の信頼関係を構築できる。	必要な情報を共有しながら正確な意思疎通を行い、医療チーム内の信頼関係を構築する。
	(4)インフォームドコンセント	インフォームドコンセントに関する基本的な知識を身につけている。	同左	模擬患者やテュリアル学習を通じて、患者の主体性を尊重しながら、医療行為の必要性・内容・危険性・他の選択肢等を説明することができる。	臨床実習の場で、インフォームドコンセントの確保(患者の主体性を尊重しながら、医療行為の必要性・内容・危険性・他の選択肢等を患者に説明し、理解と納得に基づく同意を得る。)に同意し、情報や心情を共有することができる。	患者の主体性を尊重しながら、医療行為の必要性・内容・危険性・他の選択肢等を患者に説明し、理解と納得に基づく同意を得る。
	(5)英語力	実習やグループ学習において、英語によるコミュニケーション能力を身に付け、情報収集・論述ができる。	実習やグループ学習、研究活動を通じて、英語によるコミュニケーション能力を見につれ、情報収集・論述・国際交流ができる。	同左	臨床実習を通じて、英語によるコミュニケーション能力を身に付け、情報収集・論述・国際交流ができる。	英語によるコミュニケーション能力を身に付け、情報収集・論述・国際交流ができる。
	(6)多職種連携	医療チーム構成員の役割について基本的な知識を身につけている。	同左	模擬患者やテュリアル学習を通じて、医療チーム構成員それぞれの役割を理解し、対応方法を提示することができる。	臨床実習の場で、医療チーム構成員それぞれの役割を理解し尊重しながら、患者中心の最良の医療・介護を提供するために連携することができる。	医療チーム構成員それぞれの役割を理解し尊重しながら、患者中心の最良の医療・介護を提供するために連携することができる。
	(7)同職種連携	実習やグループ学習において、同僚や役割分担・情報共有・意思疎通・相談等を円滑に実行できる。	実習、グループ学習や研究活動の中で、同僚や専門領域が異なる教員・研究者の業務を理解し、役割分担・情報共有・意思疎通・相談等を円滑に実行できる。	模擬患者やテュリアル学習を通じて、同僚や専門領域が異なる医師の業務を理解し、役割分担・情報共有・意思疎通・相談等を円滑に実行できる。	臨床実習の場で、同僚や専門領域が異なる医師の業務を理解し、役割分担・情報共有・意思疎通・相談等を円滑に実行できる。	同僚や専門領域が異なる医師の業務を理解し、役割分担・情報共有・意思疎通・相談等を円滑に実行できる。
	(8)リーダーシップ	実習やグループ学習において、構成員間の意見の相違や軋轢を調整し、円滑かつ効率的に取り組むことができる。	実習、グループ学習や研究活動の中で、構成員間の意見の相違や軋轢を調整し、円滑かつ効率的に取り組むことができる。	テュリアル学習の中で、構成員間の意見の相違や軋轢を調整し、円滑で効率的なチーム医療を提案することができる。	臨床実習の場で、最良の医療を提供するために、円滑で効果的なチーム医療を先導する。	最良の医療を提供するために、構成員間の意見の相違や軋轢を調整し、円滑で効果的なチーム医療を先導する。
DP3-3: 自己開発力		医学・社会の変化をにらみながら、積極的に最新の情報を収集・分析し、基礎医学を中心として医学の修得に積極的に取り組むことができる。	研究活動の中で、自分自身の知識、技術や態度を客観的に評価し、その向上に向けた努力をする能力を身に付けている。	医療を取り巻く変化を踏まえ、最新情報を収集・分析し、臨床医学を中心とした医学の修得に積極的に取り組むことができる。	臨床実習を通じて医学の修学に積極的に取り組むとともに、臨床医学・生命科学の先分野に触れ、継続的に学術的視野の拡大に努めることができる。	・医学の修学に積極的に取り組み、生涯にわたり自己研鑽を続ける習慣を身に付け、医学・医療の変化や医師の社会的役割の変化に対応できる自己開発力を身に付けている。 ・ICT(Information and Communication technology)活用能力を持つ。モラルに則り多様な情報を収集・分析して適正に活用する情報リテラシー能力を身に付け、的確なプレゼンテーションなどに活用できる。
	(1)生涯学習	常に最新の基礎・社会医学の知識を修得するために、生涯にわたって継続して学ぶ姿勢を身につけている。	研究活動を通じて、常に最新の医学・科学の知識を修得するために、生涯にわたって継続して学ぶ姿勢を身につけている。	常に最新の臨床医学の知識を修得するために、生涯にわたって継続して学ぶ姿勢を身につけている。	臨床実習の場で、進歩し続ける医療において、常に最新・最善の医療を提供するために、生涯にわたって継続して学ぶ姿勢を身につけている。	進歩し続ける医療において、常に最新・最善の医療を提供するために、生涯にわたって継続して学ぶ。
	(2)自己研鑽	学習過程において、自身に対するフィードバックを受け入れ、常に自らの知識・能力・振舞いを省察し、自己の向上に努める姿勢を身につけている。	研究活動を通じて、自身に対するフィードバックを受け入れ、常に自らの知識・能力・振舞いを省察し、自己の向上に努める姿勢を身につけている。	高年次でも做ることなく、自身に対するフィードバックを受け入れ、常に自らの知識・能力・振舞いを省察し、自己の向上に努める姿勢を身につけている。	臨床実習の場で、自身に対するフィードバックを受け入れ、常に自らの知識・能力・振舞いを省察し、自己の向上に努める姿勢を身につけている。	自身に対するフィードバックを受け入れ、常に自らの知識・能力・振舞いを省察し、生涯にわたって自己の向上に努める。

	(3)共同学習	学修過程において、同僚や関係者間で建設的なフィードバックを行い、共に教えあい学びあうことができる。	研究活動の中で、同僚や関係者間で建設的なフィードバックを行い、共に教えあい学びあうことができる。	学修過程や技能実習において、同僚や関係者間で建設的なフィードバックを行い、共に教えあい学びあう姿勢を身につけている。	臨床実習の場で、提供する医療の質向上のために、同僚や関係者間で建設的なフィードバックを行い、共に教えあい学びあう姿勢を身に付けている。	提供する医療の質向上のために、同僚や関係者間で建設的なフィードバックを行い、共に教えあい学びあう。
	(4)後進の育成	後輩医学生 の模範となるように、自身の態度や表情・雰囲気のもつ影響も十分認識しつつ、その育成に努める。	研究活動の中で、後輩医学生や研究者に知識や技能を指導し、その育成に寄与することができる。	基礎から臨床医学全体を通じて自ら学んだ知識や技能を後進に指導し、育成することができる。	臨床実習の場で、後進の模範となるように、自身の態度や表情・雰囲気のもつ影響も十分認識しつつ、後進の育成に努める。	後進の模範となるように、自身の態度や表情・雰囲気のもつ影響も十分認識しつつ、後進の育成に努める。
	(5)ICT活用・情報リテラシー力	学修過程において、ICT(Information & Communication technology)を活用した情報収集、分析を行うとともに、情報リテラシー力を身に付け、的確な学修を行うことができる。	研究活動の中で、ICTを活用した情報収集、分析を行うとともに、情報リテラシー力を身に付け、的確な研究やプレゼンテーションを行うことができる。	基礎から臨床医学全体を通じた学修過程において、ICTを活用した情報収集と分析を行い、的確な学修を行うことができる。	臨床実習の場で、情報リテラシー力を持って、ICTを活用した情報収集と分析を行い、的確なプレゼンテーションなどに活用できる。	ICT(Information & Communication technology)活用能力を持つ。モラルに則り多様な情報を収集・分析して適正に活用する情報リテラシー力を身に付け、的確なプレゼンテーションなどに活用できる。